



平成24年度 在宅医療連携拠点事業 成果報告会資料

平成25年3月23日(土)

「医療連携における和歌山市モデルの基盤づくりと波及効果」

医療法人裕紫会 中谷病院
在宅医療連携拠点事業部

医療連携における和歌山市モデルの 基盤づくりと波及効果

～合同カンファレンスを軸に活動展開～



平成24年度 厚生労働省モデル事業



医療法人 裕紫会
中谷病院

在宅医療連携拠点事業部

和歌山市の概要



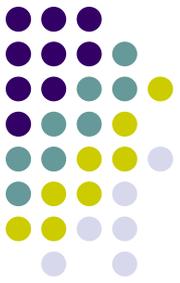
和歌山市全体

人口	378,029人
男性	179,729人
女性	198,300人
世帯数	167,675人
高齢化率	25.5%

和歌山市東部(主な活動エリア)

人口	78,254人
男性	37,379人
女性	40,875人
高齢化率	24.7%
65歳以上高齢者数	19,330人
要介護認定者数	4,515人
独居高齢者	2,988人
在宅寝たきり高齢者	85人
病院数	4
診療所数	75
歯科診療所数	32
調剤薬局	26

活動の特徴



- 1、合同カンファレンスを「軸」とした在宅医療連携の基盤づくりに取り組む。
- 2、地域包括支援センター、訪問看護ステーションと連携し「住民公開セミナー」を開催し、在宅医療について普及啓発を図っている。
- 3、多職種連携による地域の誤嚥性肺炎予防に取り組んでいる。

和歌山市モデルのイメージ



定期的に開催する合同カンファレンスを「軸」に連携基盤の整備

関係機関

病院 診療所 歯科診療所
調剤薬局
訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
介護事業所
地域包括支援センター

医師会
歯科医師会
薬剤師会
看護協会
介護支援専門員協会
訪問看護ST連絡協議会
認知症支援協会
言語聴覚士会
栄養士会
歯科衛生士会

和歌山県福祉保健部
和歌山市保健所
在宅医療連携拠点事業所

合同カンファレンス(定期開催)

つながりのある合同カンファレンス

【手法】

- アンケート
- ヒアリング
- 事業報告・評価
- 講演、研修
- グループディスカッション
- パネルディスカッション
- 名刺交換会
- フリーディスカッション
- 懇親会等

【内容】

顔の見える関係づくり
在宅医療先進事例報告
地域課題の検討
課題に対する解決策の検討
地域連携ツールの検討
誤嚥性肺炎へのアプローチ
活動内容の報告等

具体策の地域展開

情報連絡シートの作成
コールセンターの開設
社会資源リストの作成
医療行為の事前確認書
わたしの在り方シートの作成
市民公開セミナー開催
介護教室の開催
リーダー研修への参画
困難事例の調整と同行
在宅支援病院として24時間受入
在宅医療連携連絡会の開催
地域のケア会議に参加
地方紙へ在宅医療に普及啓発
誤嚥性肺炎予防対策
ホームページにて情報発信

参加

協力

共催

対策

フィードバック

普及啓発

住民ネットワーク

みんな(地域)で解決!

地域課題の抽出方法



① 事前アンケートおよびヒアリング活動を実施 234名

医療機関69名 訪問看護ステーション22名 居宅介護支援事業所98名
地域包括支援センター32名 在支4名 薬局5 施設3名 その他1名

② アンケート・ヒアリング結果の集計と分析

③ 合同カンファレンスにてアンケート・ヒアリング結果を報告し共通理解を図り、グループディスカッションを実施。専門職別に15グループで議論。

診療所 歯科診療所薬剤師 訪問看護ステーション 居宅介護支援事業所
病院MSW 地域包括支援センター 介護施設

④ グループで複数の課題の抽出

⑤ グループ内で優先課題及び解決策を検討

地域課題の抽出および活動計画



●地域における優先課題

1、連携関係

- ・医療依存度の高い患者の退院が増えているので在宅医療・介護の連携が重要となっ

ているが、社会資源を集約化している相談窓口がない。

- ・多職種が情報交換や話し合える場が少ない。

2、サービスの量的、質的な充実

- ・医療ニーズの高い方を支える、往診医や24時間体制の訪問看護の不足により負担が特定の所に集中している。看取りに関わる人が少ない。
- ・入退院、看取り、口腔ケアに関する知識や情報不足がある。

3、家族基盤

- ・独居、高齢夫婦世帯が増えているため在宅医療や介護の理解が得られにくいため、家族サポートや地域住民への在宅医療、介護の周知が必要。

●解決策(実施計画)

1、連携関係

- ・事業所や職種間で情報を共有する「連携ツール」「社会資源リスト」を作成する。
- ・相談を受ける「コールセンターを開設」する。
- ・定期的に「合同カンファレンスを開催」し情報交換等ができる機会をつくっていく。

2、サービスの量的、質的な充実

- ・医師や訪問看護など複数の機関が関われる体制整備を図り、個々の負担を軽減する。
- ・口腔ケアに関する講演会やパネルディスカッションを開催し、知識や意識の向上を図る。歯科医師、言語聴覚士、歯科衛生士、訪問看護、栄養士などの相談窓口を紹介する。
- ・口腔ケア、嚥下チームが機能する体制整備。

3、家族基盤

- ・医療や介護を利用した在宅療養についての住民公開セミナーを開催する。
- ・地域包括支援センターや訪問看護と連携し住民への普及啓発を図る。

誤嚥性肺炎予防に向けての地域連携モデル



1、目標

在宅療養生活を支えるためにリスクファクターである誤嚥性肺炎を予防する。

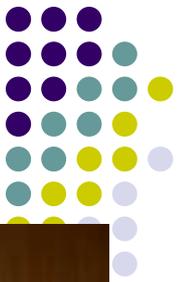
2、対応策

- ・関係職種間で認識を深め連携を強化する。
- ・地域住民への問題提起および誤嚥性肺炎予防への普及啓発。
(リーフレット作成、市民講座開催、介護者への聴き取り調査)

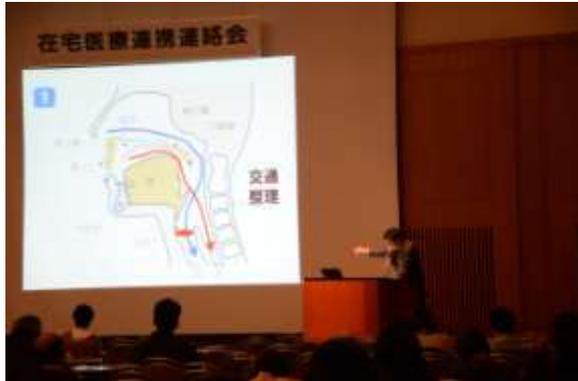
3、地域でのマネジメント

- ・窓口機能(コールセンター)で関係機関や専門職の相談を受け必要時は同行訪問を行う。
- ・誤嚥性肺炎予防が必要な方へのサービスコーディネート。
- ・口腔ケア、嚥下チームが機能するための体制整備。
- ・社会資源リストやリーフレット作成。
- ・研修会、講演会、パネルディスカッション等を開催し認識を深める。

誤嚥性肺炎予防へのアプローチ



講演（歯科医師）



講演（言語聴覚士）



講演（歯科衛生士）

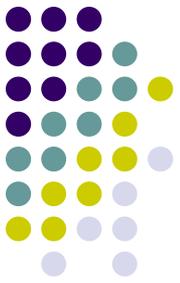


パネルディスカッション

- 医師
- 歯科医師
- 薬剤師
- 訪問看護師
- 介護支援専門員
- 言語聴覚士
- 歯科衛生士
- 栄養士
- 和歌山県
- 和歌山市保健所
- 在宅医療連携拠点事業所



合同カンファレンス風景



平成24年10月25日 146名



平成25年1月31日 156名



平成24年12月13日 129名



平成25年3月7日 176名



地域住民への普及啓発



市民公開セミナー

「医療が必要になってもお家で生活
できることを知っていますか？」

参加者 82名

- 地域包括支援センター
- 担当エリア訪問看護ステーション
- 在宅医療連携拠点事業所 共催



成果(評価)



- 1、定期的に開催する合同カンファレンスは、参加者も多く「顔の見える関係づくり」のきっかけとなった。名刺交換や意見交換を通じて確実にネットワークが広がっている。
- 2、在宅医療連携拠点事業についての普及啓発は一定の効果があった。エリア外からも問い合わせがあり、合同カンファレンスへの参加者数が増えている状態である、今後の事業継続にむけての基盤づくりが出来上
がりつつありエリア外への波及効果もみられている。
- 3、「合同カンファレンス」で抽出した地域課題の解決に向けて具体策を展開できている。
- 4、在宅、看取りに関わるマンパワー不足については、現在のところ具体的な取り組みができていない状況で今後の課題である。
- 5、面的支援を可能とするためには、専門職個々の努力では限りがあるため行政、医師会、各職能団体、拠点事業所等が集まる定期的な「合同カンファレンス」は情報共有・問題解決型会議は有効に機能した。

効果的な活動にするためのポイント

～ 中谷病院在宅医療連携拠点事業部の行動指針 ～



- 1、他職種から多職種連携へ。
- 2、顔の見える関係づくりから話したことのある関係づくりへ。
- 3、連携は受け身ではなくこちらから。
- 4、連携は相手の事を知ることからはじまる。
- 5、お互いに「手をつなごう」という姿勢から共通目標が生まれる。
- 6、点から面へ、面からストーリーへ。
- 7、人と人との関係性の上に連携や地域ケアシステムが成り立つ。